

## 人間社会学部公共社会学科

「公共社会学科」は、これまでの「社会学科」のカリキュラムを改編して生まれた新しい学科です。社会の大きな変化に対応し、学科の特色をより明確にするために、平成21年度より公共社会学科と名称変更しました。近年の高度情報化、グローバル化の中で、急激な社会変動と社会問題の多様化が進んでいます。このなかで、多様な人々が協働する持続可能な地域社会と国際共生を実現するために、公共社会学科は、公共性の考え方をベースに、時代が要請する課題解決に対応できる人材の養成を目指しています。混迷する時代に課題を的確に捉え、課題解決の実践力を身につけ、参加型の高度福祉社会に欠かせないアイデアやビジョンをもったリーダー、企業人としてよき隣人としてパートナーシップを発揮できる人、地域づくりや国際共生に貢献できる人になってもらいたいと考えています。

公共社会学科では、公共性を基礎としながら、「地域社会」と「国際共生」に焦点をあてた学習・研究を行います。地域社会にしっかりとした足場を置き、国際的視野で物事を考え、行動していくグローバル（ローカルでありながらグローバル）な視点を重視しています。履修コースとして、「地域社会ネットワークコース」と「アジア国際共生コース」を設置しています。

### 1. 2つの履修コース

#### (1) 「地域社会ネットワークコース」

グローバル化の進展にともなって、人々の生活拠点である地域社会はより大きな意味を持つてきました。求められている高度福祉社会は、ゆたかな地域社会なしには成立しません。グローバルな環境問題への対応も、国際協調と地域社会での取り組みの両方がなければ効果はありません。また、バリアフリーのまちづくりを各地域で進めなければ、バリアのない世界を築くことはできないでしょう。“Think Globally, Act Locally”という良く知られたフレーズは、これを端的に示しています。地域社会ネットワークコースでは、個人が立脚する地域社会の視点から世界を見つめなおす方法をとります。現代人があまり意識せずに依拠している地域での社会関係、集団・組織、産業構造、そして社会意識や生活上の問題、地域社会相互の関係等を学び、自立した持続可能な地域社会の運営のあり方を考察します。広い意味でのまちづくりの方法を学びます。

地域社会は、その範囲も性格も多様です。時代が大きく転換するなかで、地域社会の構成も変わり、その運営のしかた、公共サービスのありかた、まちづくりの考え方も変化しつつあります。個々人がともに生活し、将来をゆだねるに足る地域は、どのような地域社会であるべきか、改めて問われています。地域社会は多様なメンバーで構成されていますが、すべてのメンバーが地域の今後を左右するのです。地球規模の視点が重要になると同時に、ローカルな世界の重要性が増し、その個性や面白さが注目されています。個性的な地域社会が存在しなければ、グローバルな世界に豊かな個性はありえません。このように、地域社会ネットワークコースでは、さまざまな地域社会が動いている現場に学び、多様なメンバーと地域社会との関わりを観察し、課題解決の方法を考えていきます。

## (2) アジア国際共生コース

「アジア」と「国際」と「共生」を結び付けたコースですが、分けて説明しましょう。まずアジアです。サッカーのワールドカップのアジア予選では、このなかにオーストラリアが入って、日本より強そうだから戦々恐々です。でもオーストラリアがアジアと思う人はあまりいないでしょう。中央アジアのウズベキスタンもアジア予選に入っていますが、隣のカザフスタンはなぜかヨーロッパ予選で戦っています。アラブ世界のアジア大陸の部分はアジア予選ですが、イスラエル、トルコはヨーロッパ予選に出場しています。この線引きがスポーツの世界だからあいまいだというのではなく、アジアという地域の限定の仕方は、歴史的に大きく変動して、政治的に便宜的に決められることが多いのです。このアジア国際共生コースにおいても、アジアは国際世界へ飛び出していく、玄関口だと考えてもいいのです。日本から一番近い、中国、韓国などのアジア諸国に行き、違う言語、違う習慣を体験し、それで物足りなかったら、ユーラシア大陸を駆け抜けヨーロッパに行ってもいいでしょう。大学4年間は長いようで短い時間です。国際社会すべてを学習するわけにはいきません。まず東アジアのことを学び、それにおいて国際性とは何かを具体的な地域と関連付けて考えていくわけです。

最後に、公共社会学科のコース制というのは閉じたものではなく、もうひとつの地域社会ネットワークコースと重なりながら学習していくものです。例えば、福岡県のある地域社会をアジアの地域社会と結びつけて考えてもらうことは、この学科にとって優れた学習モデルです。

## 2. カリキュラムの構成

公共社会学科の専門教育科目は「公共社会学基礎論」、「社会調査・情報処理」、「地域社会ネットワーク」、「アジア国際共生」の領域で構成されています。1年次では全学共通科目の履修に加えて、専門教育科目としては主に公共性に関する基礎論を学びます。2年次から2つの履修コース—地域社会ネットワークコース、アジア国際共生コース—のどちらかを選択し、コースに分かれてそれぞれの分野を専門的に学ぶこととなります。地域社会ネットワークコースを選択した場合は「地域社会ネットワーク」領域の科目を中心に、アジア国際共生コースを選択した場合は「アジア国際共生」領域の科目を中心に履修します。2つの履修コースは学びのコアを意味しています。両コースは完全に分離したものではありませんので、他コースの領域の科目も関心に応じて履修してください。

「社会調査・情報処理」は両コースとも共通して履修する領域です。情報リテラシー、リサーチ力を修得するための科目を置いています。このほかに教職課程を選択すると中学校教員（社会）と高校教員（公民）の「教員免許」が取得できます。取得できる免許・資格はつぎの通りです。

## 3. 取得できる資格・免許

高等学校教諭一種免許状（公民）  
中学校教諭一種免許状（社会）  
社会調査士  
上級情報処理士  
社会福祉主事任用資格

#### 4. 5つのキャリア支援プログラム

公共社会学科では専門教育と連動した5つのキャリア支援プログラムを設けています。本学科で学んだ公共性や地域社会・国際共生に関する専門的な知識、リサーチや分析能力を、各自のキャリア形成を展望しながら応用し、活用するためのプログラムです。

学生はそれぞれの進路希望に応じて自由にプログラムを選択できます（必ず1つは選択、複数の選択も可）。

なお、大学内キャリアサポートセンターと連携し、組織的に就職情報の収集を行い、企業インターシップの促進など学生のキャリア支援を強化します。

##### (1) 公務員受験支援プログラム

公務員受験を志望する学生に対して、学科のカリキュラムとは別に実践的な講座を開設し、早い時期から具体的な指導を行います。

公務員にはいろいろな種類があります。公務員の種類と仕事の内容、採用方法等について情報を提供します。

##### (2) 教職免許取得支援プログラム

公共社会学科では高等学校教諭一種免許状「公民」と中学校教諭一種免許状「社会」が取得できます。本学科は教員養成を主目的とする学科ではありませんが、現代社会の諸問題の分析と高度福祉社会構築への実践的提案力を活かして子どもの教育に独自の貢献をすることが可能です。

カリキュラムとは別に、職業としての教職という側面から様々な情報を提供し、互いに意欲を高めあって進路選択に活かせるよう支援していきます。次の3項目を目標にします。

- (1) 教職の現状（学校現場、教職の展望等）について認識を深める。
- (2) 教科書や教育関係法規について研究を深める。
- (3) 教員採用試験の受験準備をする。

##### (3) 情報処理関係資格取得支援プログラム

###### 【上級情報処理士】

本学の所定の単位を修得すれば、上級情報処理士の資格を取得することができます。

上級情報処理士は、全国大学実務教育協会が認定する資格です。

次の4点が教育目標となります。

- ① 高度な情報処理技術の応用を身につける。
- ② ビジネスで活用されるソフトウェア技能の応用を身につける。
- ③ プレゼンテーション能力の応用を身につける。
- ④ オフィスの組織や情報の流れを活用する技能を身につける。

従って、上級情報処理士を取得することは、コンピュータを使いこなす技術が身についたことの証になり、企業にとって、学生の就職の際、情報処理能力を客観的に評価できる一つの材料となります。

###### 【マイクロソフト認定アプリケーションスペシャリスト (MCAS)】

本学は、隣接するたがわ情報センターと連携し、MCAS資格取得講座を開講しています。

Microsoft Office は、現在、多くの職場で活用されている代表的なアプリケーションソフトです。2007 Microsoft Office system や Windows Vista のオペレーティングシステム (OS) につ

いての操作スキルの認定資格が「マイクロソフト認定アプリケーションスペシャリスト（MCAS）」です。この認定資格は、企業での認知度が高いため、就職活動前に取得しておきたい資格です。

#### **(4) 社会調査士資格取得支援プログラム**

社会調査は生活の実態や社会的課題を明らかにする技法です。そして、この社会調査の技術の基礎をマスターしている人に与えられるのが「社会調査士」資格です。この資格は、社会調査協会という一般社団法人が認定する資格であり、医師資格のように特定の職業に直接結びつくものではありませんが、データ収集・分析とそれに基づく企画能力が身に付くので、いろいろな職業分野で活用できます。

資格取得に必要な科目は公共社会学科のカリキュラムに全て含まれています。キャリア支援プログラムでは、社会調査の応用―授業や実習で習得した知識やスキルが実際に企業や行政などでどのように利用されているかなど―について認識を深めるとともに、社会調査協会や日本社会学会の最新の動向を情報提供し、資格申請手続きを円滑に行えるよう支援します。

#### **(5) ビジネス・スキル修得支援プログラム**

社会に出て仕事をする（とくにチームで仕事をする）上で、どのような職場においても必要なスキルを身に付けることを目的として、以下のプログラムを提供します。

##### **【ロジカル・トレーニング】**

問題を論理的に思考し整理する方法、多様な選択肢を漏れなく重複なく整理する技法、会議を円滑にかつ効率的に行う技法などを学びます。

##### **【企画書作成】（計画中）**

特定の条件の下で特定の宛先人を想定して、具体的かつ実効性のある企画書を書くのに必要な技法を学びます。

##### **【プレゼンテーション】**

企画や報告を、説得的かつ簡潔に行う技法（文書・レジュメ作成、アプリケーションソフト活用法等）を学びます。

##### **【法務】**

組織にコンプライアンス（法令遵守）が求められている時代に必要な法的知識を学びます。

### **5. 予想される進路・就職先**

卒業後は、地域政策や地域福祉政策のプランナー、コンサルタント、マスコミや民間企業の営業・企画等で活躍することが期待されます。また国際的な事業展開のある企業、国際協力団体・NPO、協同組合等への就職も期待できます。

これまでの卒業生の多くは、保険・金融業、流通業、サービス業、マスコミ・情報産業等の民間企業に就職し、また教員、自治体職員、法務教官、警察官、NPO・NGO職員として就職し活動しています。卒業後大学院に進学し、より高度な学問研究を目指す人もいます。

別表第4 公共社会学科専門教育科目（※は共通専門科目）

授業科目の区分と科目名		単位		授業方法	開設時期（標準履修年次）				備考
		必修	選択		1年次	2年次	3年次	4年次	
公共社会学 基礎論	社会学概論	2		講義		2			
	社会学史Ⅰ	2		講義	2				
	社会学史Ⅱ	2		講義	2				
	公共性研究A（公共性の社会学）	2		講義	2				
	公共性研究B（地方自治基礎論）		2	講義	2				
	※公共性研究C-Ⅰ（社会保障論Ⅰ）		2	講義			2		
	※公共性研究C-Ⅱ（社会保障論Ⅱ）		2	講義			2		
	社会学の分析法A（ミクロ理論）		2	講義			2		
	社会学の分析法B（集団・組織論）		2	講義			2		
	社会学の分析法C（マクロ理論）		2	講義			2		
	現代社会論A（ジェンダー・世代）		2	講義		2			
	現代社会論B（情報社会論）		2	講義		2			
	現代社会論C（情報社会と法）		2	講義		2			
	※家族社会学Ⅰ		2	講義		2			
	※家族社会学Ⅱ		2	講義		2			
	福祉社会学		2	講義			2		
	社会病理学		2	講義		2			
	社会変動と社会問題		2	講義			2		
	集合行動論		2	講義			2		
	公共人類学Ⅰ（医療）		2	講義			2		
	公共人類学Ⅱ（教育）		2	講義			2		
	労働経済論A		2	講義		2			
	労働経済論B		2	講義		2			
CSR（企業の社会的責任）論		2	講義			2			
社会的企業家論		2	講義			2			
※社会心理学		2	講義	2					
※パーソナリティ論		2	講義	2				人間形成学科の人格心理学と共通	
社会調査・ 情報処理	社会調査法	2		講義		2			
	社会調査の設計		2	講義		2			
	データ分析の基礎		2	講義			2		
	社会統計学Ⅰ		2	講義		2			
	社会統計学Ⅱ		2	講義		2			
	質的調査法		2	講義		2			
	※データ処理とデータ解析Ⅰ	1		演習			1		
	※データ処理とデータ解析Ⅱ		1	演習			1		
	社会調査実習		2	実習			2		通年
	情報数学		2	講義		2			
プログラミング概論		2	講義		2				
地域社会 ネットワーク	地域社会学Ⅰ		2	講義	2				
	地域社会学Ⅱ		2	講義			2		
	コミュニティ論		2	講義		2			
	都市社会学		2	講義	2				
	地域社会学特講		2	講義			2	(2)	
	地域社会分析法A（地域と生活）		2	講義			2		
	地域社会分析法B（住民参加）		2	講義			2		
	地域社会分析法C（地理）		2	講義			2		
	環境社会学		2	講義			2		
	地理学概論		2	講義		2			
	地方自治論		2	講義			2		
	地域社会研究Ⅰ		1	演習		1			選択必修
	地域社会研究Ⅱ		1	演習		1			選択必修
	地域保健論		2	講義			2		
地域計画論		2	講義			2			
社会福祉計画論		2	講義			2		社会福祉学科の福祉行財政と福祉計画と共通	

授業科目の区分と科目名		単位		授業方法	開設時期（標準履修年次）				備考
		必修	選択		1年次	2年次	3年次	4年次	
アジア 国際共生	国際社会学Ⅰ		2	講義	2				
	国際社会学Ⅱ		2	講義	2				
	国際政治学		2	講義	2				
	多文化社会論		2	講義		2			
	国際社会福祉論		2	講義			2	(2)	隔年開講 平成25年度は開講しない
	世界地理		2	講義	2				
	東アジア関係史		2	講義		2			
	韓国の社会と文化		2	講義		2			
	中国の社会と文化		2	講義		2			
	イスラム社会論		2	講義		2			
	文化人類学Ⅰ		2	講義		2			
	文化人類学Ⅱ		2	講義		2			
	国際教育文化交流論		2	講義			2		
	国際共生研究Ⅰ		1	演習		1			選択必修
	国際共生研究Ⅱ		1	演習		1			選択必修
	NPO論		2	講義			2	(2)	
	国際協力論		2	講義			2	(2)	
外書講読A		1	演習			1	(1)		
外書講読B		1	演習			1	(1)		
関連科目	哲学要論		2	演習			2		
	倫理学		2	講義			2		
	日本史概論		2	講義		2			
	西洋史概論		2	講義		2			
	法律学概論Ⅰ		2	講義			2		
	法律学概論Ⅱ		2	講義			2		
	比較教育学		2	講義		2			
	教育社会学		2	講義			2	(2)	
共通専門科目（他学科開設）	※社会福祉学概論Ⅰ		2	講義	2				
	※地域福祉論Ⅰ		2	講義			2		
	※地域福祉論Ⅱ		2	講義			2		
	※教育学概論		2	講義	2				
	※生涯教育論		2	講義		2			
	※社会教育論		2	講義		2			
	※コミュニケーション論		2	講義	2				
	公共社会学研究Ⅰ	1		演習			1		
	公共社会学研究Ⅱ	1		演習			1		
	卒業論文	6						6	

※ 共通専門科目は、他学科で開設される3科目以上を含んで、6科目以上選択必修。

注1：地域社会研究Ⅰ、国際共生研究Ⅰは1科目選択必修。

2：地域社会研究Ⅱ、国際共生研究Ⅱは1科目選択必修。